

## 第 632 回：【4 年生向け】先行研究を読む際に気にしたい こと 3 選（MS）

みなさんこんにちは。水曜日担当の MS です。今回の LA 通信では、とくに卒論を執筆中の 4 年生の皆さん向けに、卒業論文の執筆に際して先行研究を読む際に気にしたいことを 3 つご紹介します。

まず、先行研究を読む理由を普段から考えておくということです。これには様々な答えが想定されると思います。一つに、卒論を執筆する段階では、まずは研究とはどのようなものであるかを大まかに知ることが重要です。何かについて問題意識を持ち、既知のことが何で、未知のことが何であるかを踏まえ、それに対して何らかの方法で答えを導くというプロセスを見て学べる点で、先行研究を読む意義は大いにあるでしょう。ほかにも、研究の新規性があるかどうかを調べるという目的（ほかの人と被らないか、すでに答えが出ている問題ではないか）もあれば、知識の引き出しを増やすことで問題に直面した時の解法を考案する際の手助けとするという目的もあるでしょう。このように、先行研究を読むことを義務としてではなく、その行為をする意義を見出しておく、卒論を書くという行為に対しても同様に意義を見出すことができるでしょう。

次に、議論の展開に気を付けて読むということです。みなさんが高校生のとき、英語や現代文の授業で展開に気をつけて読み進めなさいと教わった経験はないでしょうか。それと同じことが当てはまるかと思います。これをするすることで、先行研究の主張内容をつかみやすくなります。著者が一般論を言ったり、主張したりした後にはどういった内容の文が置かれるでしょうか。おそらく多くの場合

は、自説を補強するための具体例が来たりすると思われます。もしそうでなければ、読者は「なぜこれを説明しなかったのか」と疑問視するでしょう。であるからして、このような議論の展開が一般的にされるのです。このような決まりは意識的に読まない気付かないものです。ほかにも、多くの研究を読み、議論の展開の規範を自分で理解しておくことは、読み手にとって読みやすく負荷をかけないような卒論を書くことへの近道にもなります。

最後に、何度も読むということです。これは単に同じことを繰り返すというのではなく、比喩的な読み方と読む速度を変えることを意味します。たとえば、最初論文を読んだときは、どんなに訓練されている人であったとしても、すべてを理解することは不可能だと思います。なので、理解できなかったことについて一つずつ調べて読む必要があるでしょう。そのうえで再度読んでみると、さっきよりは内容が分かった状態になっているため読む速さも向上していると思います。そこで今度はあえて最初よりも遅く読んでみて、1 回目と 2 回目で見落としていたことがないかを確認してみます。毎回同じように読むのではなく、比喩的な読み方と読む速度を変えて読んでみると、先行研究をさらに深く理解することにつながります。ぜひ試してみてください。それでは。